

0.合う英訳を見つけて辞書を使えば、辞書を使うコツがつかめるであろう。読者の皆さんも、至極の名作を一日数行でも辞書を引ながら読んでみるのはどうですか。また機会があれば、英語と日本語の違ったニュアンスが楽しめる文学作品も解説したいと思う。

<英文1>と<英文2>を設問に応じてこなれた訳ではなく、あえて訳の過程が分かるよう試訳する。(<英文1> は、下線部のみ)

<英文1>

個人は、別の方法では得ることができない利益を手に入れ、また加えられかもしれない悪を避けるためにあれこれの方法で自分の仲間に対して振舞う。(中略)

社会は、社会に与えた利益に対して人に報酬をあたえ、害に対して人を罰する。

<英文2>

作家は、生計の手段を与える職業をもちこの職業が与える自由時間に書くべきだと言うことは簡単だ。実際、この過程は、作家は、たとえ(今は)有名で人気があったとしても、書くことによってなんとか生活していくほどの十分なお金を稼ぐことができなかつた過去において至極一般的に強いられていたのだ。

英語の辞書について (2) 英英辞典

法学部
北尾 泰幸

1. はじめに

前号の語研ニュース (No. 21) で英和辞典について取り上げたが、今回は英英辞典 (English-English Dictionary) について取り上げたいと思う。学生諸君は英英辞典を使ったことがあるだろうか。

名古屋校舎の法学部・経営学部・現代中国学部の学生諸君は、「英語が専門ではないので、英英辞典を使うことなど思いもよらなかった。」とか「英英辞典なんてまだまだ難しすぎますよ。」という意見を述べるかもしれないが、愛知大学の学生諸君は十分に英英辞典を使いこなせるだけの英語力があると思う。使い方によっては英英辞典は非常に役に立ち、英和辞典だけでは得ることができない知見を得ることができるので、ぜひ英和辞典とともに使っていただきたい。しかしながら、英英辞典では英語の単語・熟語の意味が英語で説明されているため、英語母語話者が使うような難しい英英辞典を使ってしまうと、まるで蟻地獄に入って抜け出ることができないような感覚、あるいは富士の樹海で迷ってしまったような感覚に陥ってしまう。つまり、ある単語の意味を調べたところ、その説明文の中に出てきた英単語に意味が分からないものがあるため、調べている単語の意味をきちんと把握することができず、そのページに付箋(ポストイット)でも貼って印を付けておいて、その分からなかった説明の中の英単語の意味を引いてみる。すると、その新たに引いた単語の説明の中にまた分からない単語が出てきたので、さらに付箋を貼って印を付けておき、その単語を引く…。こうやって単語を引く作業を繰り返していると、知らないうちに数時間経っていて、辞書は付箋で膨らみ、まるでカリフラワーのようになっているとともに、いったい元々何の単語を引いていたのか分からなくなってしまうだろう(これはこれで「ことばの海」に溺れた感覚を味わうことができ、幸せといえば幸せかもしれないが)。

したがって、学生諸君は、英語母語話者が使うような英英辞典ではなく、英語を外国語として学ぶ人向けの英英辞典を使う必要がある。本稿ではこのような英英辞典を紹介しながら、英英辞典を使うことの利点を探っていききたいと思う。

2. 英英辞典の特色

英語を外国語として学ぶ学生諸君にお勧めしたい英英辞典は次の5冊である。

(1) a. Sinclair, J. et al. (2006) *Collins COBUILD*

Advanced Learner's English Dictionary (Fifth Edition), HarperCollins Publishers. [COBUILD⁵]

邦題：『コウビルド英英辞典 改訂第5版』
HarperCollins Publishers (発行)、日本出版貿易 (発売)

b. Mayor, M. et al. (2009) *LONGMAN Dictionary of Contemporary English (Fifth Edition)*, Pearson Longman. [LDOCE⁵]

邦題：『ロングマン現代英英辞典 5訂版』
Pearson Longman (発行)、桐原書店 (発売)

c. Walter, E. et al. (2008) *Cambridge Advanced Learner's Dictionary (Third Edition)*, Cambridge University Press. [CALD³]

d. Rundell, M. et al. (2007) *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners (Seventh Edition)*, Macmillan Education. [MED⁷]

e. Wehmeier, S. et al. (2005) *Oxford Advanced Learner's Dictionary (Seventh Edition)*, Oxford University Press. [OALD⁷]

この5つの英英辞典の中でいちばん特徴的なのは、(1a) の『コウビルド英英辞典 改訂第5版』(以下、[COBUILD⁵]) である。『コウビルド英英辞典』は初版が1987年に発行されており、初版発行から約20年間改訂を重ね、現在は改訂第5版が販売されている。説明の仕方に癖があり、それまでの英英辞典が取ってきた説明の手法とは大いに異なっていたため、昔はコウビルドの説明方法を嫌う人も少なからずいた。[COBUILD⁵] の説明の独自性を探るために、動詞 discuss を例に、(1a) の [COBUILD⁵] と (1b) の『ロングマン現代英英辞典 改訂第5版』(以下、[LDOCE⁵]) の説明法を比べてみよう。

(2) a. [COBUILD⁵]

discuss:

1. If people **discuss** something, they talk about it, often in order to reach a decision.
2. If you **discuss** something, you write or talk about it in detail.

b. [LDOCE⁵]

discuss:

1. to talk about something with another person or a group in order to exchange ideas or decide something
2. to talk or write about something in detail and consider different ideas or opinions about it

現在、調べている単語は discuss である。しかし [COBUILD⁵] では第一義の説明でまず、If people discuss something, ... と始まっており、調べているはずの discuss が語義の中に現れているのである。例えば国語辞典で同じような説明がなされている場合を考えてもらいたい。「話し合う」の意味を引いたとき、「もし人々が何かを話し合うのなら…」という記述から説明が始まっていたら、一瞬面食らってしまうだろう。従来の英英辞典では動詞の意味を説明するときには、[LDOCE⁵] のように to 不定詞を用いて説明するのが主流であり、現在もこのように to 不定詞で動詞の意味を説明している辞書が多い。

では、[COBUILD⁵] はこのように if 節の中に調べている語句を書き記すことで、何を表そうとしているのだろうか。実は [COBUILD⁵] ではこの if 節の記述を設けることにより、discuss の語法を説明しているのである。If people discuss something, の部分で、discuss は他動詞であり、後に直接、名詞句を取ることを明示しているのである。実際は to 不定詞表記をしている [LDOCE⁵] でも、例えば次の例文から、discuss が名詞句を従える他動詞であることが分かる。

(3) [LDOCE⁵] **discuss**

- a. Littman refused to discuss the case publicly.
- b. If you would like to discuss the matter further, please call me.

しかしながら、[COBUILD⁵] では、例文だけではなく語義に語法を書き記すことによって、語法により目を向ける工夫がなされているのである。

この [COBUILD⁵] の特徴である、語法に焦点を当てた表記を、他の見出し語で見てみよう。

- (4) a. **homework** /həʊmwɜ:k/ ① **Homework** N-UNCOUNT is school work that teachers give to pupils to do at home in the evening or at the weekend. □ *Have you done your homework, Gemma?* ② If you **do** your **homework**, you find out what you need to know in preparation for something. □ *Before you go near a stockbroker, do your homework.*
- b. **interested** /ɪntrestɪd/ ① If you are **interested** in something, you think it is important and want to learn more about it or spend time doing it. □ *I thought she might be interested in Paula's proposal... I'd be interested to meet her.* ② An **interested** party or group of people is affected by or involved in a particular event or situation. □ *All the interested parties eventually agreed to the idea.* ③ → See also **self-interested**.
- c. **handsome** /hænsəm/ ① A **handsome** man has an attractive face with regular features. □ *...a tall, dark, handsome sheep farmer.* ② A **handsome** woman has an attractive appearance with features that are large and regular rather than small and delicate. □ *...an extremely handsome woman with a beautiful voice.* ③ A **handsome** sum of money is a large or generous amount. [FORMAL] □ *They will make a handsome profit on the property.* ④ **handsomely** He was rewarded **handsomely** for his efforts. ⑤ If someone has a **handsome** win or a **handsome** victory, they get many more points or votes than their opponent. □ *The opposition won a handsome victory in the election.* ⑥ **handsomely** The car ran perfectly to the finish, and we won **handsomely**.
- d. ♦ **drop in** If you **drop in** on someone, you visit them informally, usually without having arranged it. □ *Why not drop in for a chat?... She spent most of the day dropping in on friends in Edinburgh.*

(4a) の homework では、第二義で “If you do your homework,” という表記がなされており、「宿題をする」は “do one’s homework” であるという連語 (コロケーション) 情報を載せている。(4b) の interested では、例えば第一義の定義の中の “If you are interested in something,” の部分で、「～に興味を持つ」という場合は “be interested in” の形を取ることを明示している。(4c) の handsome では第一義の “A handsome man has an attractive face with regular features.” の定義でいわゆる「ハンサムな男」の意味を載せているが、第二義の “A handsome woman has an attractive appearance with features that are large and regular rather than small and delicate.” の定義にあるように、A handsome woman... と書き始めることによって、英語では handsome は男性だけでなく女性にも使われる形容詞であることを示している。(4d) の drop in では、“If you drop in on someone...” の部分で、drop in は誰か「人

を訪ねることを述べるときには前置詞 on を従えることを示しているとともに、どこか「場所」にちょっと立ち寄りよりも、誰かのもとに立ち寄るときに使う、つまり目的語に「人」を従えることが多いことを示しているのである。

このように、[COBUILD⁵] は独自性あふれる定義を用いることにより、語の使い方、つまり語法を詳細に説明しているのである。

(1b) の『ロングマン現代英英辞典 5訂版』([LDOCE⁵]) も大学生には使い勝手がいい辞書である。定義をできる限り基本的な語で記す配慮がなされているとともに、5訂版ではコーパス (corpus) を駆使してコロケーション (collocation: 語と語のつながり) や類義語 (synonym) に関するコラムを設け、ある語を引くとその語の使い方や他の類義語とのニュアンスの差を探ることができる配慮がなされている。また、例えば discuss の項では、日常の英語 (everyday English) では、discuss よりも talk about のほうが頻繁に用いられるといった、言語の使用域 (register) に関する情報も載っている。英語を読むときにももちろん役立つ辞書であるが、[COBUILD⁵] 同様、英語を書くときにも重宝する辞書だと言えるだろう。

(1c) の Cambridge Advanced Learner’s Dictionary (Third Edition) (以下、[CALD³]) は、1995年に発行されその後好評を得ていた Cambridge International Dictionary of English ([CIDE]) の流れを汲んでいる辞書である。語の使い方 (語法) を詳しく載せているのが非常に特徴的である。例えば、[CALD³] の ask は次のように書かれている。

- (5) **ask** /ɑ:sk/ ② /æsk/
 ▶ verb QUESTION ① [E] [I OR T] to put a question to someone, or to request an answer from someone: [+ TWO OBJECTS] *She asked me a question.* ○ *Can I ask you a favour?/FORMAL Can I ask a favour of you?* ○ *She asked a question about Welsh history.* ○ *She asked me about Welsh history.* ○ *She asked about Welsh history.* ○ [+ QUESTION WORD] *I've no idea what time the train leaves. Ask the guard whether he knows.* ○ *I asked the guard the time of the train's departure.* ○ *I asked when the train would leave.* ○ [+ SPEECH] *"What time does the train leave?" I asked.* ○ *If you need any help, please don't hesitate to ask.* ○ *You should ask (your accountant) for some financial advice.* ○ [+ to INFINITIVE] *You should ask your accountant to give you some financial advice.* ○ *I asked to see my accountant.* ○ *I'd like to ask your advice/opinion on a financial matter.* ○ *You have to ask permission to leave.* ○ [+ that] FORMAL *The solicitor asked that her client (should) be allowed to make a telephone call.* ○ FORMAL *We ask that any faulty goods (should) be returned in their original packaging.* INVITE ②

(5)で分かるように、[+ TWO OBJECTS], [+ QUESTION WORD], [+ to INFINITIVE], [+ that] のような情報とともに、それに対応する例文が載っている。これにより、ask がどのような形で用いられるのかがよく分かり、英語を書く上で非常に役に立つ。

また、[CALD³] は例文の質がよいことでもよく知られている。辞書を「引く」だけでなく、「読む」ことを味わえる辞書でもある。

(1d)の *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners (Seventh Edition)* (以下、[MED⁷]) もコーパスを駆使した辞書である。語の頻度を星印で表しているが、頻度の高い語については、語の詳しい説明の前に、各定義の核となる情報を載せているので、学習者にとっては語の定義を見つけやすいだろう。また文法や語法の説明が詳しい。外国語として英語を学ぶ人を対象としていることが窺える。例えば、discuss の項では、discuss が前置詞 about を伴わないことを別のコラムを設けて書いている。また do の項では、do の助動詞としての使い方、自動詞としての使い方、他動詞としての使い方が詳しく説明されている。また、a lot と lots の違い、economic と economical の違いなど語のニュアンスの差もコラムを設けて説明されている上、ちょうど辞書の真ん中あたりに、英語のライティングのコツや語彙の増やし方等の説明が97ページに渡って載っている。英語の百科事典のような感じがする辞書である。

(1e) の *Oxford Advanced Learner's Dictionary (Seventh Edition)* (以下、[OALD⁷]) は1948年に初版が発行された伝統的な良い辞書である。第7版では、例えば money と cash の違いなどの同義語に関する情報や、informal English では wh 語 (what, how, whether 等) の前では depend on より前置詞 on を伴わない depend のほうがよく用いられるなどの文法情報も詳しく載るようになった。

3. 語の微妙なニュアンスを探る

前章で各英英辞典を紹介し、特に [COBUILD⁵] を例に、英英辞典から語法 (phraseology) を探ることができることを述べたが、ここでは英英辞典を使うことによって、語の微妙なニュアンスを探ることができるという利点があることを、いくつ

かの例を出して示したいと思う。

3.1 offer, supply, provide, give

例えば和英辞典で「提供する」を調べると、次のような語が載っている。

(6) offer, supply, provide, give

(6) に挙げた語はどのようなニュアンスの差があるのだろうか。各語を英和辞典で引き、例文をしつかり吟味すればなんとなくニュアンスが分かってくるが、英英辞典を引くと、英和辞典だけでは十分には分からない、さらに深い語のニュアンスが分かる。例えば、[LDOCE⁵] では次のような定義が挙げられている。

- (7) a. **offer:** to ask someone if they would like to have something, or to hold something out to them so that they can take it
- b. **supply:** to provide people with something that they need or want, especially regularly over a long period of time
- c. **provide:** to give something to someone or make it available to them, because they need it or want it
- d. **give:** to let someone have something as a present, or to provide something for someone

(7a) の offer の定義から、offer は相手が欲しがっているものを尋ねたり、相手に物を与えるという意味であることが分かる。(7b) の supply の定義からは、supply は offer よりも、もう少し限定された意味合いを持つことが分かる。supply も offer 同様に相手に物を与えるが、supply の場合は相手が (とりわけ長年) 必要としている、あるいは欲しがっているものを与えるという意味合いが含まれていることが分かる。(7c) の provide も、“because they need it or want it” の記述から、相手が必要としているもの、あるいは相手が欲しがっているものを渡すということが分かる。(7d) の give の定義からは、同じ提供する場合でもブ

プレゼントとして渡す場合には give を用いるのがよいことが分かる。このように、英和辞典の日本語の定義だけでは分からないような語の細かいニュアンスを探ることができるのが英英辞典の利点の一つである。

3.2 with flying colors

“with flying colors” という熟語があるが (イギリス英語表記: with flying colours)、どのような意味をご存知だろうか。飛んでいる色とともに... という英語だが、意味は「大成功を収めて、見事に」という意味である。前号の語研ニュース (No. 21) で『ウィズダム英和辞典 第2版』が語法を詳しく記述しているいい英和辞典であることを述べたが、その『ウィズダム』ですら、「大成功を収めて、見事に」の記述しかなく、また例文が載っていない。

そこで、英和辞典の「大成功を収めて、見事に」という意味を頼りに、次のような文を作成したとする。

(8) # The Hanshin Tigers won the pennant with flying colors. (阪神タイガースは見事にペナントレースで優勝した。)

(8) の話者は、阪神タイガースの優勝に至る様子が素晴らしく、その様子を強調したくてこの文を使っているが、(8) の文を聞いた英語母語話者は思わず吹き出してしまっただろう (主語が阪神タイガースなので吹き出すのではない: 笑)。次の英英辞典の定義を見ると、なぜ英語母語話者が笑ってしまうかがよく分かる。

(9) a. [LDOCE⁵]

with flying colours: If you pass a test with flying colours, you are very successful in it.

b. [COBUILD⁵]

with flying colours: If you pass a test with flying colours, you have done very well in the test.

[LDOCE⁵], [COBUILD⁵] とともに “If you pass a test with flying colours,” の部分から、この “with

flying colors” という語は試験に関して使われる語であることが分かる。従って、(8) のような試験に全く関係のない状況では使うことができないということになる。このように、英英辞典を用いると、その語義から、英和辞典に載っている日本語の意味だけでは理解できない語の使い方を推し量ることができるのである。

3.3 organized

日本語に訳しにくい英語というものがいくつかある。例えば (10) のような文で出てくる “organized” がそうである。

(10) She's not a very organized person and she always arrives late at meetings. [CALD³]

『ウィズダム英和辞典 第2版』を引くと、“organized” には例文とともに次のような語義が与えられている。

(11) **organized:**

1. 《名の前で》組織的な、団体の 活動など
2. 考えが 整理された、行事・会議などが 首尾よく行われて、準備周到な
3. 人が てきぱきした、有能な; 事が 能率 [効率] のよい

『ウィズダム』の第三義に 人が とあるので、人である She が主語である (10) にはこの第三義が当てはまると考えられるが、どれもしっくりいかない。このようなとき、英英辞典を引くと、この “organized” という語の「感覚」がよく分かり、ぴったりとした日本語訳がうまく浮かばなかったとしても、言わんとしている英語の文の内容がなんとなく掴めるのである。英英辞典では次のような語義が与えられている。

(12) a. [COBUILD⁵]

organized:

1. An **organized** activity or a group involves a number of people doing something together in a structured way,

rather than doing it by themselves.

2. Someone who is **organized** plans their work and activities efficiently.

b. [CALD³]

organized:

1. arranged according to a particular system
2. describes someone who is able to plan things carefully and keep things tidy
3. (of travel, visits, activities, etc.) planned and arranged for you to do, especially as part of a group

c. [OALD⁷]

organized:

1. [only before noun] involving large numbers of people who work together to do sth in a way that has been carefully planned
2. arranged or planned in the way mentioned
3. (of a person) able to plan your work, life, etc. well and in an efficient way

[COBUILD⁵] の第二義、[CALD³] の第二義、[OALD⁷] の第三義が (10) の organized の意味に当たるが、日本語の訳には十分には表れない、「何事においても、きちんと考え、用意周到にきっちりと行う」といったような organized の語の雰囲気十分伝わってくるだろう。

このように、英英辞典の語義を読むだけで、英和辞典の日本語による語の意味の説明だけでは分からない、語の微妙なニュアンスを知ることができるのである。(注：紙幅の都合で書くことができないが、前号の語研ニュース (No. 21) で取り上げた "apparently" など、英英辞典を引くと、英和辞典では十分には分からない語感がよく伝わってくる。ぜひ英英辞典を引いて確かめていただきたい)。

4. まとめ

以上見てきたように、英英辞典は英和辞典では十分に探ることができない語のニュアンスを探ることができるがよく分かっていただけだと思う。また中でも [COBUILD⁵] (『コウビルド英英辞典 改訂第5版』) は、語義の部分から語の使い方を探ることができるがよく分かっていただ

けたと思う。本稿で示したように、英英辞典も辞典ごとに特色があるので、できれば複数の英英辞典を手許に置いていただきたいが、学生諸君は1冊でもいいので、ぜひ手許に置いて英語学習に大いに活用していただき、英語の奥深さ・英語の楽しさを体感していただきたいと思う。

独学で語彙力をつける方法 とは

名古屋語学教育研究室
林 姿穂

1. 語彙習得における問題点と背景

第二言語 (L2) の語彙を如何に覚えて語彙力を伸ばすか、その方法については自分自身で試行錯誤して見つけ出そうとしてきたのではないだろうか。家庭学習で単語の暗記がどのような方法でされているかは学習者まかせになっていることが多く、外国語講師があまり介入していないように思われる。私自身が学生時代に受けた英語の授業を振り返ってみても、学習のペース作りとして単語テストを受けるといった形が多かった。授業では語彙力強化のみに焦点を当てるといったよりは英語の技能を全体的にアップさせることを目的としている事が多い。知っている単語「数」が重要であると考えて学ぼうとする多くの第二言語学習者に対し、教育現場では文法や読解といったその他の知識を重視するので、両者間でずれがあると指摘する研究者や専門家もいる。ほぼ独学で、多くの単語を覚えようと試みる学習者は大学生だけでなく、中学高校で単語テスト準備をする生徒にも当てはまる。ここではL2の語彙を習得するとはどういった状態を指すのか明確にしたい。また、独学で語彙力強化に努める学習者に効果的な学習法をいくつか提案したい。